



平成 26 年 11 月 6 日

各 位

日本マクドナルドホールディングス株式会社  
 代表取締役社長 サラ・エル・カサノバ  
 (コード番号：2702 JASDAQ)  
 問い合わせ先 財務本部執行役員 今村 朗  
 TEL 03-6911-6000

## 平成 26 年 12 月期第 3 四半期連結決算状況

日本マクドナルドホールディングス株式会社の平成 26 年 12 月期（平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日）の第 3 四半期累計期間（平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日）の連結業績につきまして、下記の通りご報告致します。

## 当期のハイライト

- 先般の上海福喜問題の影響により、売上高、利益ともに対前年比で大幅な減少
- 食の安全への信頼回復のための投資、価格戦略、メニュー改革、そして既存店への投資を通じ、迅速に事業を回復し、更なる顧客満足の上上に努める

(単位：百万円)

	平成 26 年第 3 四半期累計期間		
	実績	対前年比	
全店売上高*	344,016	-36,886	-9.7%
連結売上高	172,248	-25,104	-12.7%
連結営業利益	238	-10,535	-97.8%
連結経常利益	-576	-11,419	—
連結当期純利益	-7,543	-13,938	—

\*全店売上高：直営店舗とフランチャイズ店舗の合計売上高

	平成 26 年第 3 四半期累計期間	
	対前年比	
既存店売上高	-9.3%	
既存店客数	-10.2%	
全店客数	-11.1%	

平成 26 年度第 3 四半期累計期間は、先般の上海福喜問題により売上高が大きく減少いたしました。この売上高の減少に伴う影響に加え、当問題により直接的・間接的に発生した投資・費用が利益を押し下げる要因となりました。具体的には引き続きお客様に最高の店舗体験を提供するためのフランチャイズオーナーに対する財務施策、当社の商品に対するお客様の信頼回復のための品質管理システムや情報開示の透明性強化への積極的な投資、原材料の廃棄費用、問題発生以降の売上動向等を踏まえた減損損失の計上等が含まれます。

今後は、引き続き食の安全に対するお客様の信頼回復を最優先課題とし、価格戦略、メニュー改革、そして既存店への投資を通じ、迅速に事業を回復し、更なる顧客満足の上上に努めてまいります。

以上

※この資料は兜俱樂部、東京商工会議所記者クラブ、外食産業記者会に配布しております。